

## スマート農業の基本を学ぶ 芦別市スマート農業研究会

空知管内の芦別市スマート農業研究会は8月上旬、スマート農業の基本を学ぶ研修会を開催し、農業者13人が参加となりました。

同研究会は、スマート農業についての情報提供を目的に設立。芦別市を中心に、空知農業改良普及センター・中空知支所とJAたきかわが連携して事務局となっています。



研修会では、講師に北海道立総合研究機構の中央農業試験場生産研究部の吉田邦彦氏を迎えて、「スマート農業の基礎について」と題して講演しました。近隣でも導入が取り組まれる、自動操舵技術やドローン、センシング技術の基本的な知識や情報について講義を受けました。吉田氏は「スマート農業の言葉が先行しすぎている感もある為、その地域に必要なものを見極めて取り組むことが大切」と説明。参加者からは、「中山間地域に合う技術とは」「実証試験の必要性」等についての質問や意見が出された。

事務局は「農業者目線で導入可能なものから取り組みたい」との考えから、全戸アンケート等を行い、その結果も加味しながら取り進め方針を決定して行きたいです。

## 実演会の開催について

空知管内の滝川市ICT農業活用協議会は9月4日、カットドレーンやGPSガイダンスシステムを活用した自動操舵の実演会を、滝川市内の伊藤大志さんの圃場で開きました。農業者や関係機関33名の参加がありました。

実演会に先立ち、空知農業改良普及センター・中空知支所が、近年の集中多雨に対応する「農家を取り組める補助暗渠工法」として、効果が期待されることから圃場試験の実施を計画し、併せて滝川市ICT農業活用協議会がこの実演会で「ホクレンRTKシステムによる自動操舵トラクタ」の自動走行を体験してもらいたいとして農機メーカーに協力依頼を行い開催されました。

実演終了後、カットドレーンの仕組みや効果について質問があったほか、試乗した参加者からは「走行については、何もすることがない」と自動操舵の有効性を再確認してもらいました。

事務局は「ICT技術を実際に体験し、その効果を確認したうえで導入を検討してもらうことが重要」とし、今後も勉強会等を通じて、農業者の知識や理解を深めていきたいと考えています。



## 終活・相続セミナー

空知管内の中空知3JA（たきかわ・新すながわ・ピンネ）の合同企画で9月6日にたきかわ文化センターにおいて、近年話題の終活・相続セミナーを外部講師の明石シニアコンサルティングの明石久美氏を招いて105名の出席者の元、開催されました。「老い支度」家族や自分が困らないようにしておきたい準備をテーマに一見、暗い重い難しそうな内容でも、明るくテンポ良くわかりやすく、時には笑いありの、肩の力を抜いて聞ける雰囲気セミナーでした。



夫婦で来られた方も多く、最後にアンケートに協力された方全員に記念品を差し上げていました。

## 滝川市内の各圃場で 稲刈り体験学習が実施

10月2日から3日にかけて滝川市内各小学校5年生と、國學院大學北海道短期大学の2年生による、稲刈り体験学習が開催されました。

体験学習は、2日に東滝川の山岸穰氏のほ場で、第一小学校（36名）と西小学校（48名）が、江部乙の平澤一彦氏のほ場で江部乙小学校